

小さな子供たちの幸せを願って

岐阜市立厚見中学校 3年
柚木 泉（ゆうのき いずみ）

私には、1歳になる妹がいる。まだたった1年ちょっとしか生きていないのに、もう自分で立ったり、私の名前を呼んだりできるようになった。姉の私とは13も違い、さらに上の姉とは17も違う。我が家は四人姉妹だったが、おとし、この妹が生まれ5人姉妹となった。うちは両親が共働きなので、姉の私たちが手分けして妹の面倒を見ている。子育ては、本当に大変で、オムツを替えたりミルクを作ったり、抱っこしたり寝かしつけたりと、休む暇がない。

大変な一方で、最近の妹は私達の言葉、行動を真似するようになり、可愛い盛りだ。14歳の私が言うのもなんだが、子どもが成長するのはとても早い。妹の成長を毎日見ながら、最近の私は、「妹がすすくと成長していくことは当たり前ではない」と考えるようになった。それは、最近のテレビや新聞の報道で児童虐待のことを度々耳にするからだ。自分の思い通りにならないと子どもに暴力を振るう親、子どもに食べ物を与えない親、子どもに子どもの面倒を見ない親……。小さな子どもたちが苦しんでいると思うと、いたたまれない気持ちになる。妹が、私たちの言葉、行動を真似するように、小さな子どもは周りの大人を見て育つのである。それなのに、周りの大人が子どもに向かって暴言を吐いたり、暴力を振るったりしたらどうだろう。子どもは身体だけでなく、精神的なストレスも受け、心が傷つき、悪い影響しか受けないだろう。私たち姉妹が協力して妹の面倒を見るだけでも大変なのだから、たった一人で子育てをして、その大変さから虐待してしまうかもしれない人がいる。たった一人では子どもは育てられないから、周りの大人で助け合ってほしい。虐待をするくらいなら助けを求めてほしいと思う。

さらに、「子どもがすすくと成長していくことは当たり前ではない」と強く思わされた出来事があった。それは学校で行われた「ユニセフキャラバン」で、世界の子どもの現状を知ったことだ。東京のユニセフハウスの方からリモートで様々な話を伺った。私たちは今、コロナ禍で毎日手洗いや消毒を当たり前のようにしているが、世界中の学校で、石鹸で手洗いができる設備があるのは43%しかないこと、また、そもそも紛争で学校が破壊されたり、貧困のため学校に行けない子どもが5900万人もいること、水を入れると15kgにもなる甕を担いで何時間かけて水を運ばなければならない環境で生きている子どもがいることを知った。ソマリアという国では、1000人のうち122人が5歳を迎えられずに下痢や肺炎、マラリアなどの病気で死んでしまうこともショックだった。この講話を聞いて、日本がものすごく恵まれた環境なんだと改めて感じる事ができた。

私は妹に元気で優しい子に育ってほしいと願っている。だから、私は「かわいいね。」「よくできたね。」と言葉をかけるようにしている。私も母から「ありがとうね。」「よくやったね。」と言葉をかけてもらっている。「何でこんな簡単なこともできないの!」など、かけられて子どもが苦しむような言葉を誰にも言ってほしくないし、自分も言わないように気をつけている。子どもは周りの大人を見て育つ。だからこそ、子どもの気持ちを考えることや、子どものことを理解してほしいと思う。まだ一歳の妹も、これからすぐ、すすくと育ち、やがては私達と一緒に笑ったり喋ったりする日が来るだろう。日本にも世界にもまだまだ虐待や貧困で苦しんでいる子どもたちがいる。そうした子どもたちもやがては成長し、大人になって笑って過ごしたり、幸せになったり、社会のため自分の力を生かしたりできるようになるだろう。そのために私は妹の手本となるようにしたいし、自分が今何ができるかを考え、行動していきたいと思う。今、目の前のことから一步一步。